

佐賀県北方町方言の外来語アクセントおよび 音声実現に関する予備調査報告

松 浦 年 男

佐賀県北方町方言の外来語アクセントおよび 音声実現に関する予備調査報告

松浦年男

Toshio MATSUURA

目次

1. はじめに
2. 調査概要
3. アクセントの音声実現と
音韻構造
4. 外来語アクセントの分布
5. 結論

[Abstract]

A Preliminary Research Report on Loanword Accent and its Phonetic Realization in the Kitagata dialect of Saga Japanese

The present study reports on the distribution of loanword accent and phonetic realization in the Kitagata dialect of Saga Japanese. The Kitagata dialect has two tonal types: Type A (with fall-pitch in a word) and Type B (without fall-pitch in a word). While most loanwords with Type A tone have pitch-fall on the first mora, loanwords with vowel devoicing on the first mora have pitch-fall on the second mora. Moreover, pitch form of Type B words varies by speaker. One of two speakers produces Type B words with pitch-fall in word final position. The distribution of tonal type in loanwords is similar to that of Nagasaki Japanese. A loanword in the Kitagata dialect realizes as a Type A tone if the word has an accent on either of two initial moras in Standard Japanese; otherwise a loanword realizes as a Type B tone. However, we found a tendency that loanwords with accent on the second mora in Standard Japanese are realized as a Type B tone in the Kitagata dialect.

1. はじめに

日本語の方言アクセントの研究は主に歴史的变化を説明する目的で行われたこともあり、和語や一部の漢語に限定されることが多かった。しかし、特に2000年代より外来語のアクセントを扱った研究も増えてきた(松浦2014参照)。外来語は歴史的变化を起こしているものは一部で、ほとんどが規則によって説明することができる。その規則は外来語特有のものというよりは、その言語に一般的

に見られるものである(東京方言についてはKubozono 2006などを参照)。その意味で、外来語アクセントの研究を進めることは一般言語学的な意義が大きいものと考えられる。そこで本稿では2つのアクセント型の対立を持つ佐賀県北方町(きたがたまち)における外来語アクセントについて予備的に行った調査の結果を報告し、若干の考察を加える。また、同方言の外来語アクセントについてはアクセントの音声実現も考慮に入れる必要があるためこれも合わせて報告する。なお、北

キーワード：アクセント，外来語，音声実現，北方町方言，音韻構造

Key words：Accent, Loanwords, Phonetic Realization, The Kitagata Dialect, Phonological Structure

方町方言のアクセントに関する研究は崎村 (2006) や平子・五十嵐 (2016) によるものがある。崎村 (2006) は外来語と一般語彙のアクセントを扱っており、短い語では A 型が、長い語では B 型が多くなるとしている。ただし、どのように型の分布が予測できるかについてはこれ以上論じられてはいない。

九州地方の二型アクセントは地理的に長崎県、佐賀県、熊本県の有明海沿岸部を中心に、鹿児島県にかけて分布しているため、西南部九州二型アクセントとも呼ばれる。2つのアクセントの型はそれぞれ A 型 (2 モーラ名詞では 1, 2 類の多くが属する) と B 型 (2 モーラ名詞では 3, 4, 5 類の多くが属する) に分かれ、A 型は下降を伴い、B 型は下降を伴わないという特徴を多くの方言で有する。

この西南部九州二型アクセントは大きく鹿児島タイプと長崎タイプに分けることができる。両タイプの違いのうち最も特徴的なのは数える方向である。鹿児島タイプは語末から数えるのに対し、長崎タイプは語頭から数えるという特徴を持つ。例えば鹿児島方言では A 型は語末から 2 つ目の音節を高くし、長崎方言では A 型は語頭から 2 つ目のモーラが高い。そのため助詞を後続した形では次のような違いが出る。以下、本稿では先行研究に倣い、[をピッチの上昇、]をピッチの下降として用いる。

(1) 鹿児島方言と長崎方言の違い

鹿児島：バ[ナ]ナ、バナ[ナ]が、バナナ[か]ら

長崎：バ[ナ]ナ、バ[ナ]ナが、バ[ナ]ナから

本稿が対象とする佐賀県北方町方言は長崎タイプに属する方言で、A 型は第 1 モーラのみないしは初頭 2 モーラが高く、B 型は語全体が高いが、助詞が低くなることがある (第 3 節で詳述する)。

以下、第 2 節では調査の概要を記す。第 3 節は音声実現について A 型と B 型に分けて問題となる点を記述する。第 4 節は外来語アクセントの分布について論じる。第 5 節は結論である。

2. 調査概要

話者は次の 2 名である。いずれも平子・五十嵐 (2016) における北方町の調査協力者と同じ方である。

- (2) a. MN 氏, 1934 年生まれ, 男性
- b. UM 氏, 1935 年生まれ, 男性

調査は 2014 年 8 月に北方公民館にて実施し、筆者の他に五十嵐陽介氏 (一橋大学) が参加した。ただし、本稿における調査結果 (アクセント型やピッチの判断を含む) は松浦によるものである。

調査語彙は松浦 (2014) より選定した 60 語を使用した。音節構造、標準語 (東京方言) および長崎方言におけるアクセント型を考慮して選定している。

表 1. 調査語彙のモーラ数

モーラ数	語数
2 モーラ	4
3 モーラ	8
4 モーラ	18
5 モーラ	20
6 モーラ	8
7 モーラ	2
合計	60

表 2. 調査語彙の標準語、長崎方言におけるアクセント型

標準語ア \ 長崎方言	A 型	B 型	合計
初頭 2 モーラ	34	1	35
それ以外	5	20	25
合計	39	21	60

これらの調査語は単独とフレーム文に入れた形で発音していただいた。

3. アクセントの音声実現と音韻構造

3.1. A型における下がり目の位置

本節では、アクセントの音声実現について報告する。平子・五十嵐 (2016) でも記述されているように、北方町方言のアクセントの音調型はA型において〇]〇〇~〇〇]〇〇と、いうように初頭2モーラのいずれかに下がり目が来る。本稿の調査においても同一の話者内で両方の音調型が見られた。代表例としてUM氏の「カレンダーば」と「ナポレオンば」のF0を示す。なお、「ば」は対格助詞で、発話によってはピッチの上昇が見られる(図1)。

本稿の調査語について見ると、表3に示すように第1モーラの直後に下がり目が来る語が圧倒的に多かった。なお、MN氏における「その他」は「カンガルー」で、これのみ第3モーラの直後に下がり目が来る発話が見られた。

表3. A型における下がり目の位置

	MN氏	UM氏
第1モーラ	31	30
第2モーラ	8	5
その他	1	0
合計	40	35

第2モーラの直後に下がり目が来る外来語は音韻的に条件付けられるものがある。まず、第1モーラが「ス」で直後の子音が無声音の

もの、すなわち無声化するものはA型の場合に2モーラ目の直後に下がり目が来る。ただし、この他に第1モーラの母音が無声化する調査語がないため、無声化条件となるものが自動的に第2モーラ直後での下降になるのかははっきりとした判断はできない(表4)。

表4. 「ス」+無声子音のアクセント型

	MN氏	UM氏
スカート	A (2)	A (2)
ストッキング	A (2)	A (2)
ストロー	A (2)	A (2)
スポンジ	A (2)	B (0)
スタジオ	B (0)	B (0)
スパゲティ	B (0)	B (0)

その他のものを見ると、第3モーラが長音の語がやや目立つ。また、MN氏のみ第2モーラの直後に下降する語は標準語において第2モーラにアクセントがある語となっている。このことから、MN氏の発話に関しては標準語の知識が影響している可能性がある。

3.2. B型の単独発話における下降

平子・五十嵐 (2016) において指摘されたとおり、北方町方言のB型の音調型は語単独では平板(高平)であるが、助詞が続くと助詞の直前で下降することがある。ただし、平山 (1951) も指摘しているように、長崎方言や天草本渡方言で見られるような高平調とは異なり、語末において緩やかな下降を伴い、聴覚印象としては下降を伴って聞こえることがある(UM氏の「アナロジー」)(図3)。

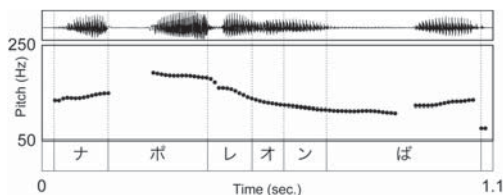
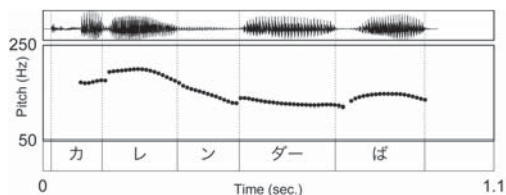


図1 UM氏による「カ」レンダー「ば」(左)と「ナポ」レオン「ば」(右)

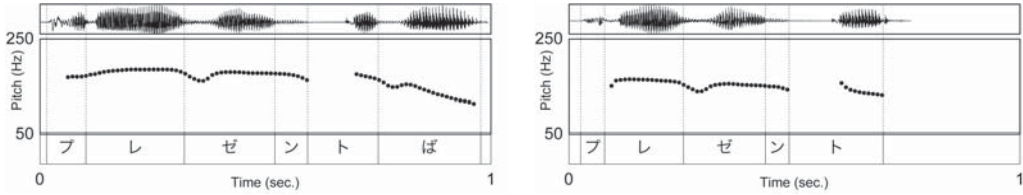


図 2 単独時に下降を伴わない B 型 (UM 氏)

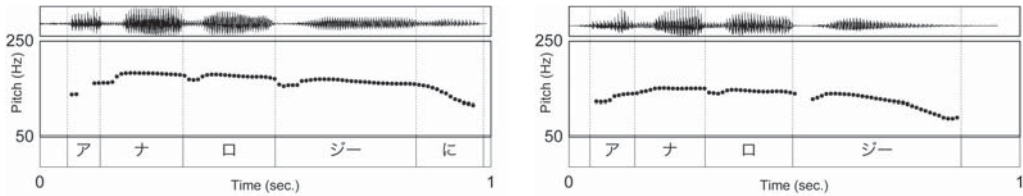


図 3 単独時に下降を伴う B 型 (UM 氏)

B 型における下降で注意したいのは、MN 氏の発話では語末よりさらに前の位置で下降が見られたことである。例を図 4 に示す。

このような B 型で下降を伴う語のほとんどは重音節を後半部に含んでおり、下降の位置も重音節の前半部（自立モーラ）から後半部（特殊モーラ）にかけて生じていることが多い。ただし別の見方をすると、語末から 3 モーラ目において生じているとも見ることができ、さらにコーヒ]ーなどの発話を考えると、標準語のパターンが出ていると見こともできる。

ただし、重音節があれば必ず下降が見られるわけでもなく、「アンサンブル」のように下降が見られないものもあり、また、単独発話において下降が非語末に生じるのは一部であることには注意する必要があるだろう。こうして見ていくと、北方町方言における A 型と B 型の弁別的特徴は、語の前半部（初頭 2

表 6. 語単独で下降を伴う外来語

	MN 氏	UM 氏
コーヒー	B (3)	B (0)
アナロジー	B (4)	B (0)
アンコール	B (4)	B (0)
スパゲティー	B (4)	B (0)
プレゼント	B (3)	B (0)
マクドナルド	B (4)	B (0)
エスカレーター	B (4)	B (0)
ナイチンゲール	B (5)	B (0)

モーラ) における急激な下降の有無と解釈する必要があるかもしれない。また、自律分節音韻論の枠組みで考えたとき、2つのアクセント型の下降は異なるメロディーが指定されていると考える必要もある。

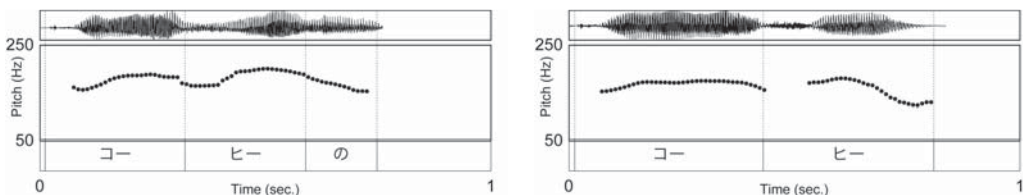


図 4 単独時に顕著な下降を伴う B 型 (MN 氏)

4. 外来語アクセントの分布

外来語のアクセント型の大局的分布を見ると、MN氏はA型が40語、B型が20語で、UM氏はA型が35語、B型が34語、いずれとも判断しがたいものが1語（コップ）であった（MN氏はA型）。両者ともA型で実現したものは33語、MN氏のみA型は6語、UM氏のみA型は2語、両者ともB型で実現したものは18語であった。標準語との対応関係を表7と表8に示す。なお、議論の都合で、標準語のアクセント型は第1モーラ、第2モーラ、第3モーラ以降、平板型の4つに分ける。

表7. MN氏のアクセント型と標準語

標準語\MN氏	A型	B型	合計
第1モーラ	22	0	22
第2モーラ	9	4	13
第3モーラ以降	2	14	16
平板型	7	2	9
合計	40	20	60

表8. UM氏のアクセント型と標準語

標準語\UM氏	A型	B型	合計
第1モーラ	20	2	22
第2モーラ	8	5	13
第3モーラ以降	3	13	16
平板型	4	4	8
合計	35	24	59

以下、標準語アクセントが第1モーラか第2モーラかについて4.1節で、標準語のアクセントが第3モーラ以降、平板型のものについて4.2節で議論する。

4.1. 標準語においてアクセントが初頭2モーラのいずれかである外来語

本節では標準語においてアクセントが初頭2モーラのどちらで実現するかが北方町方言のアクセント型においてどのような違いと

なっているかについて検討する。まず、第1モーラにアクセントが来る外来語を見ると、両者ともほとんどがA型となっている。それに対して第2モーラにアクセントが来る外来語では両者ともおよそ30%ほどがB型で実現している。

このようなアクセント位置による違いは長崎方言との間で見たときに、どのように説明しうるのだろうか。Matsuura (2008) や松浦 (2014) では長崎方言の外来語アクセントについて検討しており、標準語において初頭2モーラにアクセントが来る外来語はA型になるという一般化を示している。松浦(2014)はこのような一般化を(3)から(5)に示すような規則の枠組みで説明している。

(3) 松浦 (2014) による分析

1. 標準語と同様のアクセント規則によるアクセントの付与
 - (i) ラテン語アクセント規則(4)
 - (ii) 平板型条件(5)
 - (iii) その他 (例: 長音と撥音の別など)

2. 第3モーラ以降のアクセントの削除
3. トーンメロディーの付与

(4) ラテン語アクセント規則 (Kubozono 1996等)

- a. 次末音節が重音節ならばその音節にアクセントを付与する
- b. 次末音節が軽音節ならば1つ前の音節にアクセントを付与する
※音節内では自立モーラにおいてアクセントが実現する

(5) 外来語の平板型条件 (Kubozono 1996等)

- a. 語全体が4モーラである
- b. 語末が軽音節連続である
- c. 語末が非挿入母音である

このうち標準語アクセントそのものは方言間で一致しているの、違が出るとすれば(3)-2のアクセント削除に関わる規則ということになる。すなわち、(6)のようになっているのである。

(6) アクセント削除規則

長崎方言：第 3 モーラ以降のアクセントを削除せよ

北方町方言：第 2 モーラ以降のアクセントを削除せよ

当然ながらこの分析にとって例外となっている語がどの程度あるのかについてはより多くの語の調査が必要となる。

次に両者でのアクセント型の一致について見ていく。一致していないのは「ビデオ」と「ブーメラン」(標準語 = 第 1 モーラ)、「カレンダー」, 「カタルシス」, 「マテリアル」(標準語 = 第 2 モーラ)で、「カレンダー」を除いて MN 氏は A 型, UM 氏は B 型で実現している。両者がともに B 型としたのは「トラック」, 「アナロジー」, 「プレゼント」の 3 語である。「ビデオ」は東京方言において第 1 モーラにアクセントがあり、長崎方言においても A 型であることを考えると、なぜ UM 氏が B 型としたのかは判然としない。

4.2. 標準語においてアクセントが平板型になる外来語

次に標準語において平板型で実現する語について見ていく。分析の前に標準語における平板型外来語について確認しておこう。標準語において平板型になる外来語は、規則的と言えるものとそうでないものに分かれる。Kubozono (1996) は平板型になる外来語は(5)の 3 つの条件全てに従っていることを指摘している。例を(7)に示す。

(7) 平板型の外来語の例

- a. 長さ ≠ 4 モーラ: カ]メラ, ビ]デオ, シンデ]レラ
- b. 語末 ≠ 軽音節: プ]ルペン, スト]ロー, アバ]ート
- c. 語末 ≠ 非挿入母音: プリ]ズム, カ]ルピス, ア]キレス
- d. 全てに適合: アリゾナ=, プロペラ=, ラザニア=

今回の調査語彙で(5)の条件に従った「規則的な平板型」を持つ外来語は「モスクワ」, 「オーロラ」, 「スタジオ」の 3 語であり、「モスクワ」が両者とも A 型, 「スタジオ」が両者とも B 型, 「オーロラ」が MN 氏が A 型, UM 氏が B 型であった。これらの語は長崎方言においていずれも B 型で実現したことを考えると、標準語との繋がりには平板型条件という点においては薄い可能性がある。

標準語における平板型条件にとって例外的(すなわち語彙的)に平板型となる外来語について見ると、「ペダル」, 「ブラジル」, 「ナポレオン」は両者が A 型, 「レントゲン」は両者が B 型, 「スポンジ」は MN 氏が A 型, UM 氏が B 型であった。長崎方言の外来語は 3 モーラ以下においてほぼ例外なく A 型となることを考えると「ペダル」も同様の原理に従ったものによると思われる。「ブラジル」も「ナポレオン」も標準語の外来語アクセント規則(4)(音節量による規則 = ラテン語規則)に従えばそれぞれブラ]ジル, ナポ]レオンとなることを考えると、MN 氏は標準語のアクセント規則をより忠実に反映した話者であると言えるかもしれない。

4.3. 標準語において第 3 モーラ以降にアクセントがある外来語

最後に、標準語において第 3 モーラ以降にアクセントがある外来語について見ていく。このパターンの外来語はその多くが両者とも

B型で実現しており例外が少ない。両者ともA型で実現したのは「カンガルー」と「シンデレラ」の2語、UM氏のみA型で実現したのは「アンサンブル」である。この条件については不明であるが、「クリスマス」や「ヨーグルト」のように長崎方言においてA型となった外来語も両者はB型であった点は注意しておく必要があるかもしれない。

5. 結論

本稿では佐賀県北方町方言におけるアクセントの音声実現ならびに外来語アクセントの分布について報告した。音声実現については、A型において下がり目が第2モーラの直後に来るものには第1モーラが無声化したものが多く見られること、および重音節などの条件によってB型の単独発話において下がり目が見られることを指摘した。その上で、外来語におけるアクセント型の分布については、松浦（2014）から期待される下がり目の位置との対応という点で見ると、標準語において下がり目が第1モーラにあるか第2モーラにあるかと北方町方言におけるA型とB型の分布の間には若干の対応が見られ、標準語において第2モーラにアクセントがある外来語では標準語において第1モーラにアクセントがある外来語に比べてB型となる語が多く見られることを指摘した。

今回の報告は非常に限られた語数によるもので、結果の信頼性については保留しなければならない部分が多い。ただし、本稿の指摘した点について焦点を当てた調査を行うことで、外来語アクセントの分布だけでなく、二型アクセント方言の理解に繋がる期待は持てるだろう。

謝辞

本稿を執筆するにあたりご協力いただいた2名の話者、ならびに共同で調査していただき、話者もご紹介いただいた五十嵐陽介氏（一橋大学）に感謝申し上げます。本稿の一部はJSPS科研費（25770155, 26244022）、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」および「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」の成果である。

参考文献

- 崎村弘文（2006）『琉球方言と九州方言の韻律論的研究』東京：明治書院。
- 平子達也・五十嵐陽介（2016）「佐賀県中南部諸方言の二型アクセントについて」『実践国文学』89（実践国文学会），pp.107-69.
- 平山輝男（1951）『九州方言音調の研究』東京：学界之指針社。
- 松浦年男（2014）『長崎方言からみた語音調の構造』東京：ひつじ書房。
- Kubozono, Haruo (1996) Syllable and accent: Evidence from loanword accentuations. *The Bulletin* (Journal of Phonetic Society of Japan) 211, pp.71-82.
- Kubozono, Haruo (2006) Where does loanword prosody come from? A case study of Japanese loanword accent. *Lingua* 116, pp.1140-1170.
- Matsuura, Toshio (2008) Position sensitivity in Nagasaki Japanese prosody. *Journal of East Asian Linguistics* 17 (4), pp.381-397.

付録 アクセント資料

アクセント型とカッコ内に顕著なピッチ下降の位置(語頭からモーラ単位で数えた値)を記す。
なお、0は顕著なピッチ下降が見られなかったことを意味する。

番号	語	音節	モーラ数	東京	長崎	調査文	MN	UM
1	アーチェリー	HLH	5	1	A	アーチェリーば始めた。	A (1)	A (1)
2	アナロジー	LLLH	5	2	A	アナロジーに頼った。	B (4)	B (0)
3	アパート	LHL	4	2	A	アパートば借りた。	A (2)	A (2)
4	アルバイト	LLHL	5	3	B	アルバイトば始めた。	B (0)	B (0)
5	アンコール	HHL	5	3	B	アンコールに応えた。	B (4)	B (0)
6	アンサンブル	HHLL	6	3	B	アンサンブルば聞いた。	B (0)	A (1)
7	エスカレーター	LLLHH	7	4	B	エスカレーターに乗った。	B (4)	B (0)
8	オーケストラ	HLLLL	6	3	B	オーケストラば聞いた。	B (0)	B (0)
9	オーロラ	HLL	4	0	B	オーロラの見ゆる。	A (1)	B (0)
10	オリンピック	LHHL	6	4	B	オリンピックば見た。	B (0)	B (0)
11	カタルシス	LLLLL	5	2	A	カタルシスの始まった。	A (2)	B (0)
12	カレンダー	LHH	5	2	A	カレンダーば買った。	B (0)	A (1)
13	カンガルー	HLH	5	3	B	カンガルーば見た。	A (3/1)	A (1)
14	クリーム	LHL	4	2	A	クリームば付けた。	A (2)	A (1)
15	クリスマス	LLLLL	5	3	A	クリスマスの近か。	B (0)	B (0)
16	ケーキ	HL	3	1	A	ケーキば作った。	A (1)	A (1)
17	コーヒー	HH	4	3	B	コーヒーの苦か。	B (3)	B (0)
18	コップ	HL	3	0	A	コップの割れた。	A (1)	B/A
19	ゴム	LL	2	1	A	ゴムの長か。	A (1)	A (1)
20	コンサート	HHL	5	1	A	コンサートば見た。	A (1)	A (1)
21	シンデレラ	HLLL	5	3	B	シンデレラば読んだ。	A (1)	A (1)
22	スカート	LHL	4	2	A	スカートばはいた。	A (2)	A (2)
23	スタジオ	LLLL	4	0	B	スタジオば見た。	B (0)	B (0)
24	ストッキング	LHHL	6	2	A	ストッキングば買った。	A (2)	A (2)
25	ストロー	LLH	4	2	A	ストローば吸った。	A (2)	A (2)
26	スパゲティー	LLLH	5	3	B	スパゲティーの食いたか。	B (4)	B (0)
27	スポンジ	LHL	4	0	A	スポンジば買った。	A (2)	B (0)
28	ソファー	LH	3	1	A	ソファーに座りよる。	A (1)	A (1)
29	ダイヤモンド	HLHL	6	4	B	ダイヤモンドば買った。	B (0)	B (0)
30	ダム	LL	2	1	A	ダムば作った。	A (1)	A (1)
31	ダンス	HL	3	1	A	ダンスば始めた。	A (1)	A (1)
32	デッサン	HH	4	1	A	デッサンば見た。	A (1)	A (1)
33	トラック	LHL	4	2	A	トラックに乗った。	B (0)	B (0)
34	ナイチンゲール	HHHL	7	5	B	ナイチンゲールば調べた。	B (5)	B (0)
35	ナポレオン	LLLH	5	0	B	ナポレオンば調べた。	A (1)	A (2)
36	バー	H	2	1	A	バーに入った。	A (1)	A (1)
37	パーティー	HH	4	1	A	パーティーに出た。	A (1)	A (1)
38	パン	H	2	1	A	パンば買った。	A (1)	A (1)
39	パンフレット	HLHL	6	1	A	パンフレットばもろうた。	A (1)	A (1)

佐賀県北方町方言の外来語アクセントおよび音声実現に関する予備調査報告

番号	語	音節	モーラ数	東京	長崎	調査文	MN	UM
40	ピーマン	HH	4	1	A	ピーマンば食べた。	A (1)	A (1)
41	ピクニック	LLHL	5	1	A	ピクニックに誘った。	A (1)	A (1)
42	ビタミン	LLH	4	2	A	ビタミンばとる。	A (1)	A (1)
43	ビデオ	LLL	3	1	A	ビデオば見よる。	A (1)	B (0)
44	ファクシミリ	LLLLL	5	1	A	ファクシミリば買うた。	A (1)	A (1)
45	ブーメラン	HLH	5	1	A	ブーメランば買うた。	A (1)	B (0)
46	ブラジル	LLLL	4	0	B	ブラジルに帰った。	A (1)	A (1)
47	プリズム	LLLL	4	2	A	プリズムば買うた。	A (1)	A (1)
48	プレゼント	LLHL	5	2	A	プレゼントばもろうた。	B (3)	B (0)
49	ペダル	LLL	3	0	A	ペダルば付けた。	A (1)	A (1)
50	ボーナス	HLL	4	1	A	ボーナスばもろうた。	A (1)	A (1)
51	ポット	HL	3	1	A	ポットば買うた。	A (1)	A (1)
52	マクドナルド	LLLLLL	6	4	B	マクドナルドに入った。	B (4)	B (0)
53	マテリアル	LLLLL	5	2	A	マテリアルば揃えた。	A (2)	B (0)
54	ミルク	LLL	3	1	A	ミルクの飲みたか。	A (1)	A (1)
55	モスクワ	LLLL	4	0	B	モスクワに帰った。	A (1)	A (1)
56	モンゴル	HLL	4	1	B	モンゴルに帰った。	A (1)	A (1)
57	ヨーグルト	HLLL	5	3	A	ヨーグルトの食いたか。	B (0)	B (0)
58	ライブラリー	HLLH	6	1	A	ライブラリーば覗く。	A (1)	A (1)
59	ランドセル	HLLL	5	4	B	ランドセルば買うた。	B (0)	B (0)
60	レントゲン	HLH	5	0	B	レントゲンば撮った。	B (0)	B (0)